

神奈川山梨教会連合会だより

かりん

「神様に使っていただく」

○高橋紀代士先生は、昭和十五年三月十八日、当時神奈川教会の修行生として御用されていた高橋喜一先生・八重子先生の長男として誕生。その後、喜一先生は子安教会で教会長のお手替わりの御用をされ、三年後の昭和十八年六月、教会長不在であった藤沢教会の三代教会長に就任され、紀代士先生は藤沢教会で成長されました。

大学卒業後、(株)三共(現在の第一三共)に入社し、主に関西方面で仕事に励まれます。その中にも「いつか教会に」との願いを持ち続け、十七年後の昭和五十五年春、四十歳で退職。昭和五十六年には金光教師に補任されます。

平成十八年十一月二十八日、藤沢教会の生神金光大神大祭の朝、喜一先生が九十九歳で逝去なされ、その後を受けて平成十九年二月に四代教会長を拝命。現在に至っています。

○魅力ある仕事を辞めて、教会に入られたのですね。
紀代士先生(以下:紀)..ある時期より、期限を切って働いていたところ、不思議に仕事上の問題が退職一か月前に全て解決し、神様から大きなお土産を頂いたと実感しました。

川でスベって山でコロんで...とってきました *Interview* 第30回 藤沢教会 高橋紀代士先生

○先代先生との話しをお聞かせ下さい。



紀:先代が朝のご祈念の後の教話で、ある朝「今日は変な話だなあ」と思っている、突然、神前の右灯明が「バリバリ!」とすごい音がする、とい

うことが何度か続き、その時に限って、ご信者さんが「有難いお話しでした」とお礼をいわれる。
バリバリという音は、私に対してのものと気付いた時から鳴らなくなりました。神

様のお話を、頂いたのでなく、聞いていたので、変だ・正しいとの私的な判断が生まれていたので。お話しの間き方を神様が教えて下さったのです。

先代の晩年、お結界へ坐らせていただくようになってからのことです。ある方にお話しの内容を用意した時は、信者さんの反応は全くなく、なぜだろうと思いつながら「神様に使って頂く心」に気付いて、別のお話をするとお礼を言われる。

内容は前回とほとんど同じなのに、「自分が話す、自分が助ける」といういわゆる「我」が強いと、神様の教えが伝わっていかない。「神様に使って頂く」という心でさせて頂くことの大切さを教えて頂きました。

○現在はどうか。

紀:まだまだ足りないことばかりですが、信者さんが信心を深めて、おかげを受けられる。また、ご信者さんが皆で折り合い、助け合っておかげを受けていられる。本当にありがたいことです。信者さんの助かり、信心を通して、神様の願い・思い・お働きを少しずつ分かせていただいております。嬉しいことです。

今年教会は開教百十年を迎え、「神人一路お礼百十年」の願いのもと、ここまで神様に使って頂けることに感謝し、これからも初心を忘れずに、謙虚にご用に使っていただきたいと願っております。

○ありがとうございました。(今村則子)

「何としても…」

— 神奈川山梨布教120年

記念集会参加記 —

○はじめに：

神奈川山梨布教一二〇年…。一二〇年のうち、私が教師として御用させて頂いたのは、ほんの数年です。長年、この地で御用されてきた先生方にとって（先覚先生の御霊様も含め）、この集会への思い入れが、私とは比べものにならないものだろうと思っております。そう考えると大変申し訳なく感じるので、命に従い集会に関わって感じたことを書かせていただきます。

○まず、スライドによる各教会の紹介：

お恥ずかしい話、参拝したことのない、初めて見る教会がいくつもありました。神奈川、山梨で20以上もの教会、一二〇年の歳月をかけて一つ一つ、結果として出来たわけです。外観から見れば民家のようでも、その一つ一つの教会に秘められた信念、「人が助かるために、何としても…」との気持ち、心がヒシヒシと感じられました。もしかして、二代、三代は初代の思いとは違うかもしれない。何としても…。その初代の信念の強さ、それがなければ続くはずもない御用というのは今、私でも何となく感じま

す。しかし、私も含め、出来上がった、その初代の先生方が残してくださったお徳の上で御用をさせて頂いてきた。それは残してくださったお徳を少しずつ削りながら削りながらいたいただき続けている。それに加えて、徳積みはなかなか出来ていない。これでは、これから先はどうなるのか。そういう思いを感じさせていただきました。

○次に、林先生のお話：

林先生は那覇という未開の地に新地布教をされました。その中にも「何としても…」の気迫が必ずあって、それが先生のお話からいっばいに感じられ、刺激を受けました。懇親会の最後に固い握手をしていたのが印象的でした。「私なりに出来ないながらも頑張らせていただきます」という気持ちを伝えさせていただきました。

○そして、典楽、吉備舞：

金光教典楽会の一員として、集会前から非常に楽しみにしておりました。吉備舞は予想以上でした。なかでも歴史舞。リハーサルから三度、見させていただきましたが、三度全て感動しました。これも金光教の文化である典楽、舞を通して「何としても伝えたい！」そういう演者方の気迫が伝わってきた感じがします。

今回の集会で感じたことも、これから私たちが伝えていかなければなりません。伝えられるかどうかで、この集会が「良い集会」だったかどうか左右されると思います。時間はかかれども、「何としても…」の思いで。

最後に、スタッフの皆様、前日からの準備お疲れさまでした。スタッフの一員として関わられたこと、厚く厚く感謝いたします。
(武蔵小杉教会 須賀院崇徳)

講師の林雅信先生
(那覇教会長)



吉備舞の演目の一つ
「箴之梅」
(えびらのうめ)



サツマイモの畝の雑草取りです

去る7月16日の海の日に「みんなのつどい12」が行われました。参加者は、下は1歳の女の子から、上は80代の方まで54名。老若男女入り混じって、まさに「みんなのつどい」となりました。

今回は、首都圏の信奉者有志で農作業体験活動を行っている「みのり」の畑で、トウモロコシとジャガイモの収穫作業、そして草取り作業をさせて頂きました。

当日は良く晴れて暑さも厳しく、畑には日陰もないため、「みのり」のご好意でテントを用意してくださいました。また自前で日除けを準備してきた方もありましたが、予想を超える参加者に、テント内はさながら通勤ラッシュの様相となりました。

「みんなのつどい12」が 開催されました

まずは準備運動を兼ねて(?)草取りから、サツマイモの脇に生えている雑草を取り除いて行きます。しゃがんで横に移動していくという、普段はなかなかやらない動きと、地面近くの暑さに皆さん苦労されたようです。

次にジャガイモの収穫です。さつきと同じようにしやがんでの作業です。最初はどこを掘ってよいは分からなかった人も多かったようですが、慣れてくると、自分が掘っている所からおイモが出てくるのが楽しくて仕方がない様子で、黙々と掘り進んでいる姿が印象的でした。

さあいよいよトウモロコシの収穫です。でも残念ながら、今年トウモロコシの生育が遅く、ヒゲの色が茶色くなりきつていないものばかりでした。それでも皆、ポキッと気持ち良く折れるトウモロコシの収穫がやめられず、実の黄色くなりきつていないものまで取っていました。まあでも気持ちばかりです。ちなみにトウモロコシの場合、予め決まった日程に収穫適期が合わないことがあります。「みのり」でも「つどい」から5日後

の21日の収穫日にはまだ完熟には早く、31日に臨時で行った収穫で、ようやくヒゲの茶色も、実の黄色も濃く鮮やかな完熟トウモロコシが採れました。作業後には、実の色に負けない濃厚な味を楽しみました。



炎天下の作業を終えてホッと一息

話は「つどい」に戻りまして、収穫作業後は、畑を提供して下さっている武内さんのお宅の庭へお邪魔してバーベキューでお腹を満たしました。

もちろん収穫したトウモロコシとジャガイモも茹でて、畑とは打って変わって庭木の木陰で、採れたての味を皆で堪能させていただきました。

生神金光大神大祭日程

平成24年 神奈川山梨教会連合会

教会名	日程
甲府教会	10月21日(日) 13時30分
津久井教会	10月27日(土) 13時00分
鎌倉教会	10月28日(日) 13時30分
川崎教会	10月28日(日) 13時00分
登戸教会	10月28日(日) 13時00分
横浜西教会	10月28日(日) 13時30分
大明教会	10月28日(日) 13時30分
横須賀教会	11月3日(祝) 13時30分
生麦教会	11月3日(祝) 13時00分
丸子教会	11月3日(祝) 13時00分
相模原教会	11月3日(祝) 14時00分
子安教会	11月4日(日) 13時30分
平塚教会	11月7日(水) 13時00分
鶴見教会	11月11日(日) 13時00分
武蔵小杉教会	11月11日(日) 11時00分
大磯教会	11月14日(水) 13時00分
野毛教会	併せて開教50年祭
小田原教会	11月17日(土) 13時30分
神奈川教会	11月23日(祝) 14時00分
藤沢教会	11月24日(土) 11時30分
南甲府教会	未定 11月28日(水) 11時00分

○神奈川山梨布教120年記念集会 御礼

2ページにも記事を掲載させていただきましたが、去る9月8日(土)鎌倉芸術館において「神奈川山梨布教120年記念集会」が開催され、教内外から二〇〇名の方々がご参集くださいました。

残暑の厳しい天候の中、多くの方々のご参加をもちまして、盛大に集会が行われましたこと厚く御礼申し上げます。

また、先生方には、広報からスライド資料の提供など、多岐に亘りましてご理解とご協力頂きましたこと、併せて御礼申し上げます。

神奈川山梨布教120年

記念事業実行委員会

○『かりん』43号訂正のお知らせ

7月に発行させていただきました『かりん』43号に訂正のお申し出がありましたので、以下にお知らせ致します。

1 ページ中段の「三十年ほど」を「三十八年前後」に、同じく下段の「二日前」を「三日前」に訂正させていただきます。

関係各所には、ご迷惑をおかけしましたことお詫び申し上げます。

今後とも気になる点がありましたら、子安教会 村田までお知らせください。

「ご霊地集会参加記」

子安教会 村田光治

神奈川県に金光教が布教されて百二十年の節年を迎えた本年。9月の記念集会に続いて、10月6日〜7日には本部生神金光大神大祭への記念団体参拝が実施され、その中で、7日の大祭第3日の祭典前に、修徳殿で「ご霊地集会」が行われました。

会場となった修徳殿「中の間」一杯に並んだイスの数を超える、乳幼児から人生の大先輩まで百五十五名が詰めかけた光景は、見応えのあるものでした。

そして、講師の近藤金雄先生(布教二部長)の、ご自身とご長男の出生に関わったのお話や、山田信二先生(横浜西教会長)と吉田文枝さん(藤沢教会信徒)のお二人の所願表明と、修徳殿の外を歩く参拝者の雑踏など気にならないほど、聞き応えのある一時間半でした。

色々と御用下さった方々にこの場をお借りして御礼申し上げます。

金光教神奈川山梨教会連合会

発行者 福田 光一

〒221-0057 横浜市神奈川区青木町六一二十五

金光教神奈川教会内